

小学部 第6学年 成果報告書

令和3年9月24日

10月4日

10月5日

10月12日

小学部年6年3名

指導者 アグアスカリエンテス校 櫛田真悠子
サンホセ校 ロス久美子

1 教科 単元名

音楽 「旋律のまとまりに気をつけて演奏しよう」

2 単元の目標

・旋律、リズム、フレーズなどと曲想との関わりについて理解し、音色や響きに気を付けて互いの音を聴いて演奏する技能を身に付ける。

・友達と協働し、旋律の特徴やフレーズを生かした表現を工夫する学習の楽しさを味わいながら、互いの音を聴き合って表現する学習に主体的に取り組む。

3 指導観

(1) 教材観

教材は、リコーダーのパートが2つ重なった「メヌエット」を扱う。リコーダー①の後にリコーダー②のパートが演奏したり、音を伸ばす箇所と刻む箇所が混在していたりと、互いの音をよく聴くことで曲が成り立つ仕組みになっているため選曲した。児童にとって、4拍子に比べて馴染みのない3拍子で作曲されているため、より周りの音を聴いて合わせようという意識が高まることが期待できる。ゆっくりと落ち着いたテンポで演奏することが好ましいため、吹きながらも相手の音に耳を傾ける余裕がある曲である。

(2) 児童・生徒の実態

両校の生徒に共通し、少人数のクラスである上にオンライン授業の期間が長かったため、合奏の経験が浅い。リコーダーの演奏技術に関しては、個別指導の時間を余裕を持ってとれているため十分である。しかし周りの音を聴いて演奏するという機会と意識が少ないため、環境から工夫していく必要がある。

4 指導計画（間接交流授業）

（１）主な学習内容及び学習活動

- （１次） 曲を聴き、拍子や音の名前などを把握する。
- （２次） 指遣いや息の速さに気をつけて、それぞれのパートを練習する。
- （３次） 友達と合わせて演奏し、旋律のまとまりを考えて曲想をつける。
- （４次） ２校の音が合わさった演奏を聴き、感想や改善点を発表する。

（２）児童・生徒の様子

- ・友達と音を合わせることで一つの曲として成立することを意識し、普段以上に拍子やリズムにこだわって演奏していた。
- ・合わせた際に音がきれいに重なるよう、音程や音色を工夫して練習に取り組んでいた。

（３）児童・生徒の振り返り

- ・国をまたいで、音楽と一緒にできるなんてすごいと思った。
- ・３人の音が重なって、一つの演奏になっていて嬉しかった。
- ・先生とではなく、クラスや相手校の友達と合わせることができたのが楽しかった。

（４）成果・課題・提案

①成果

- ・友達の演奏と合わせるという機会があったことで、音程やリズム、音色に対する意識が高まり、より精度の高い演奏につながった。
- ・クラスの人数が少ないことでどうしても教員との活動に偏りがちであったが、ICT機器を活用することで他校との合奏が可能になり、該当学年の子供たちだけで演奏を完成させることができた。

② 課題

- ・機器を通すと音のずれが発生するため、相手の録音に重ねる形での間接授業の形をとった。その分、相手と自分たちの演奏がどう合わさっていたのかの確認が、時間が経ってからになってしまった。

③ 提案

直接授業の中で録音の機会をつくる。その場で自分たちの音源を聴きながら、改善点を探していくことができる。また、客観的に自分たちの演奏を振り返る機会にもなると感じた。

（５）教室レイアウト（ICT機器の配置）

- アグアス校・・教室での授業では、PCを使って録音・録画をした。
- 音楽室の授業では、液晶モニターにサンホセ校の演奏を写し、モニターのスピ

一カーから音を流した。

サンホセ校・・PCで演奏動画を確認しながら、自身のパートを練習した。
液晶モニターに写したアグアス校の演奏動画と、合わせて演奏した。